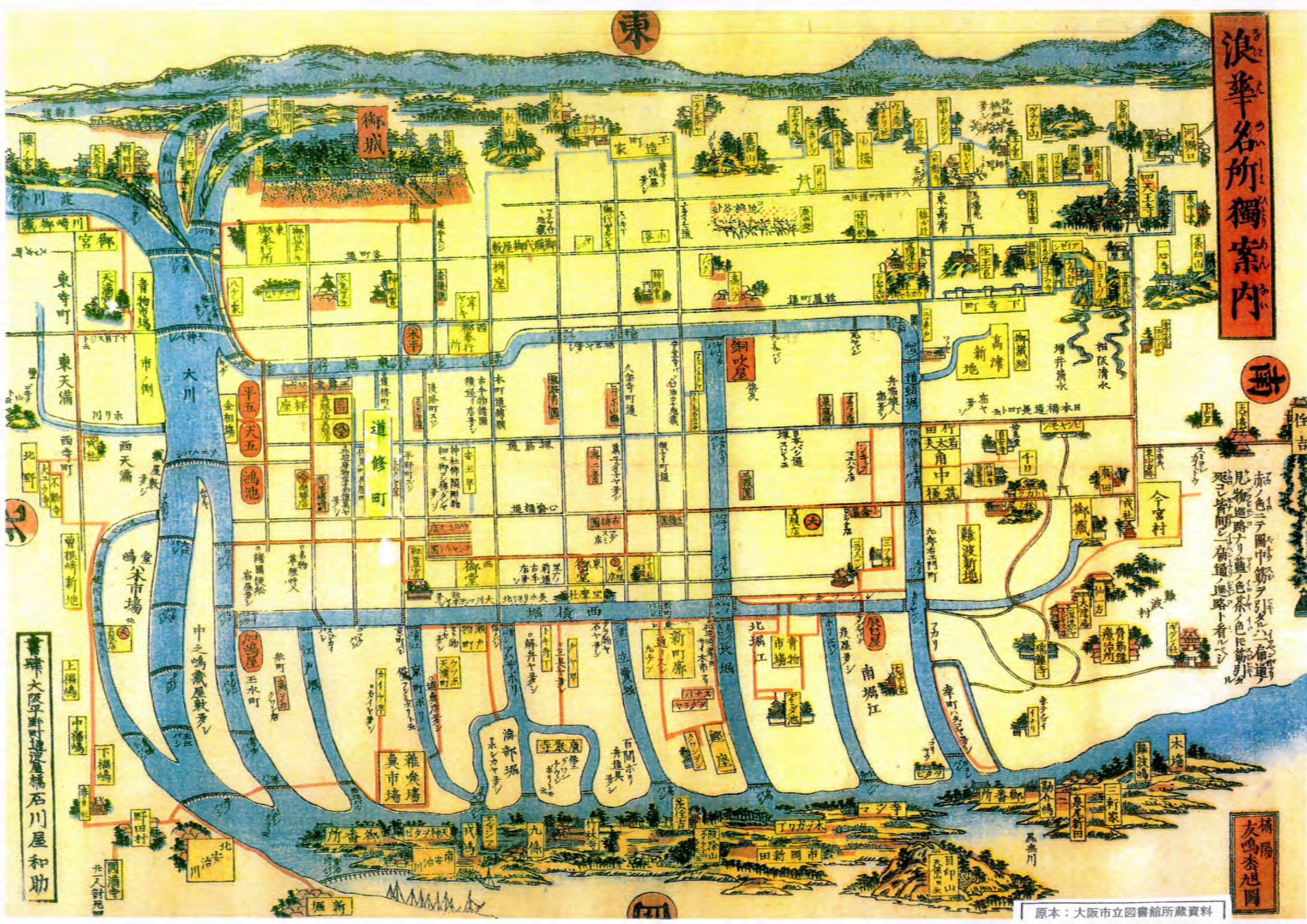


浪華名所獨案内

冊

此の三テ圖中筋ヲ引キテ二幅ニ  
彫物邊ナリ藍色赤色に筋引ル  
廻リ寄附一層通ノ路ト有ルベシ

精陽  
友鳴杏旭圖



書肆大坂平野町連渡橋石川屋和助



## 「浪華名所獨案内」から読み取る江戸時代の大坂（なにわめいしよひとりあんない）

大阪おもしろ案内人 沖本然生

この地図は天保3（1832）年に、ある合薬屋が広告として作った一枚摺りの地図です。

近世大坂の名所や店舗が記されており、当時のにぎやかな市中の様子を知ることができる。

この地図1枚で大坂の観光を独りで楽しめるように色別にモデルルートが描かれており、2泊3日で3コース。

図は、友鳴松旭（ともなりしょうぎく）（暁 鐘成による図もある）。書肆は、石川屋和助。

### 【構図】

この図は、東を上描かれており、海から眺めた大坂のまちの姿になっています。

図の上部の左寄りに、御城が大きく描かれ、そこから右方向に森ノ宮・イナリ社・高津宮・生玉社・キヨミズ・四天王寺・一心寺などの上町台地の寺社が、図の右端には、今宮村、戎社、天下茶屋、住吉の文字が見えます。背景には、左から生駒山、二上山、葛城山、金剛山が描かれています。

### 【水の都】

図の横方向（南北）に水色で、上から東横堀、西横堀、木津川が、縦方向（東西）に、左から大川、長堀、道頓堀が描かれています。大川は、土佐堀川、堂島川と、蜷川に分かれています。西横堀から西へ木津川との間には、江戸堀、京町堀、阿波座堀、立売堀が並んでいます。

東横堀と西横堀の間が中心市街地で、長堀よりも北側（左側）の大川までが「船場」、南側の道頓堀までが「島之内」と呼ばれていました。東横堀より東側は「上町」、西横堀より西側は「西船場」「堀江」と呼ばれていました。

### 【まちの姿】

道路を見ると、図の中央部南北（横方向）に、谷町通、松屋町通、堺筋通り、心斎橋通りが描かれ、長堀橋、日本橋、心斎橋、戎橋の名前も見えます。この2本の道が、船場、島之内を突き抜けるメインストリートになっていた。（この図では、南北の道も「通り」と表記されています。東西の「スジ」もいくつか見られ、当時は、東西は通り、南北は筋という明確な使い分けに一貫性はない。明治初期に、行政が東西を「通り」、南北を「筋」と定めた経緯ははっきりしない。

東西（縦方向）の通りを見ると、伏見町、道修町、淡路町、安土町、本町、久宝寺町、順ケイ町などの名前が見えます。通り名は入っていませんが、今バシ、カウライバシ（高麗橋）、シアンバシ、ノウニンバシ、安堂寺バシ、九ノ介バシ、瓦ヤバシといった橋の名前が書かれています。

### 【船場】

街区は基本的に40間四方の正方形で、街路は碁盤目状に直交しています。大坂城の西に位置することから東西方向が縦（たて）となり、東西方向の街路を通（とお）り」と称しています。計23本あり、当初の幅員は4.3間に設定されていました。一方、南北方向は横（よこ）となり、南北方向の街路を筋（すじ）と称しています。計13本。当初は補助的な街路とされたために幅員は3.3間と通に対して狭く設定されていました。

名所・名店についてみると、赤いラベルで、御城と銅吹屋、平五・天五・鴻池・加嶋屋といった両替商。

茶色のラベルで、スルガヤ、玉露堂、虎屋饅頭、ウルユス店、コシヤウシ円、古梅園などの名店。

黄色のラベルに赤い紋章入りで、升屋岩城呉服店、三井呉服店（後の三越）、小橋屋呉服店、松屋呉服店（現在の大丸）が目立つ。現在も残っている名店も多くあります。

黄色のラベルはたくさんありますが、ざっと見ると、東御奉行所・西御奉行所、天満宮、四天王寺、住吉、西御堂・東御堂（方角では北・南ですが）、川沿いに八ケン家、青物市場・雑喉場魚市場、金相場、御蔵、道頓堀に沿って竹田・若太夫・角・中・筑後の浪花五座、周辺部には曾根崎新地・高津新地・難波新地など、多数の名所や地名が記されています。

中之島や西天満には蔵屋敷多し、堂島には米市場の文字が見えます。

この地図で、西御堂、東御堂となっているのは、西本願寺別院（津村御堂）、東本願寺別院（難波御堂）だから。方角による位置関係よりも建物の由来からそのように呼ばれていたようです。この地図では東が上に描かれています。

### 【島之内】

島之内を見ると、堺筋と心斎橋筋には、長堀、道頓堀共に橋が架かっています。堺を経て和歌山に通じる堺筋の長堀橋と日本橋は幕府が管理する公儀橋ですが、心斎橋筋の心斎橋、戎橋をはじめ市内の大半の橋は町人が管理する町橋でした。大坂には公儀橋は12しかなく、多くが大坂城の周辺、特に京都に通じる北側に集中していました。

**三津寺や三つ八幡(御津神社)。**舟宿、旅人宿多し。**日本橋通、堺筋**という。などの文字が見えます。

**住友銅吹屋、大丸呉服店**が大きく描かれ、**道頓堀の南には芝居の五座**があります。「五つ櫓」とも言い、道頓堀を代表する劇場群で、近代に至るまで、歌舞伎や仁輪加(軽演劇)、人形浄瑠璃などが賑々しく興行されました。

### 【堀江、西船場】

最後に開発された街、**銅吹屋**のため炭が大量に必要そのため堀江に炭や多し、**北堀江にアミダ池**、**北堀江に土佐藩邸**があったため材木が集められた。また**鯉**が集められたので**鯉座**、**スナバ**(大坂城の材料置き場、そば発祥地)、**立売堀**(アラモノ多い、現在工具やが多い)、**鞆**は塩魚(ひもの、乾物)かいぶ堀も、**雑魚場魚市場、堂島米市場、天満青物市場三大市場**、1931年(昭和6年)移転。**ナガホリ**(大坂の新町遊廓、京都の島原遊廓、江戸の吉原遊廓)

### 【難波付近】

高津新地の南には御蔵跡があります。かつてはこちらに**御蔵**がありました。千日、**難波新地**、**日本橋通長町**ト云。

### 【大川より北】

**京街道、桜宮、大長寺、野田村**(東)、淀川を渡って**御宮**(川崎東照宮 戊辰戦争時には長州藩の陣)、**天満宮、青物市場**

### 【西】

**御番所**(安治川から大坂に入る船を監視、同じものが尻無川の勘助島にもある)、**竹林寺**は朝鮮通信使の中継地。**波除山**(河村瑞賢、新川(元禄11年1698)安治川の土を盛った今は平坦。1831年(天保2年)から約2年間、安治川では「天保の大川浚」とよばれる浚渫工事が行われた。延べ10万人以上の労働力がつぎ込まれた浚渫工事は、工事自体がお祭り騒ぎだったと伝えられている。浚えられた土砂を安治川河口に積み上げられてできた築山は十間(約20m)**天保山(目印山)**。**山本勘助**、**三軒**しか家がなくさみしい。**泉尾**(北村六右衛門の出身地・和泉国大鳥郡踞尾(つくの)村)

### 【南】

**幸町、櫻川、赤手拭稻荷神社、瑞龍寺**(鉄眼寺黄檗宗の仏教寺院)。**ぎおん社**(難波八坂神社)、**廣田神社**(痔のアカエイ)、**戎神社**、**御蔵**(ニンバシの専売公社)、**びしゃもん**(大乘坊七福人)、**千日回向**、**自安寺**、**竹林寺**、**法善寺**、**堺筋日本橋過ぎると、長町**と云う、**住吉街道＝紀州街道**(熊野街道は上町台地の上)、**合邦の辻閻魔魔堂**。

### 【上町台地】谷町筋より東

**河堀口**(和気清麻呂)、**庚申堂**(日本第一)、**関帝廟(堂)オカチ山(御勝山(岡山))****安居天神(真田幸村終焉地)**、**毘沙門池**は今はない、**五條神社**。**ウカムセ(第一番料亭)**、**上之宮**(四天王寺七宮、今は上之宮高校の前)、**梅屋敷**、今の近鉄上六、**宝樹寺**も、**産湯イナリ**(味原地区や小橋地区の開拓者「大小橋命」が産湯に使った井戸とされる「玉の井」)この地には名神大社「比売許曾神社新羅から来た阿加流比売神」**契沖庵**(呪いの鎌八幡)、**アジワラ池**(今はない位置がおかしい)**高津宮**(くろやきや。惚れ薬、薬事法)植木屋があった。**ノバク**瓦土を掘ったところ、使い物ならない土を積み上げた**高バラ**。**ナライセドウ**(暗がり越え奈良街道、二軒の茶屋があった。**玉造いなり**、**森ノ宮**(元四天王寺)**杉山**、今の森の宮から城まで杉が多かった。**城代屋敷**があった。松屋町に**西奉行所**(初代大阪府庁)、**シアンバシ**(追手筋)

### 【上町台地】谷町筋より西

北から八軒浜、東奉行所元はここに西奉行所もあった享保9年(1724年)の大火で両奉行所ともに焼失した教訓から西町奉行所は移転。火の見櫓は家光の時大坂町中の地子銀の永久免除を約束された。それに感謝して三郷惣年寄が協議し釣鐘を造らせて町中に時報を知らせたことに由来する。追手筋思案橋。西町奉行所、牢屋敷。神明宮は大江公園にあったが今は春日出に移転してない。**ノバク**瓦土を掘ったところ、使い物ならない土を積み上げた**高バラ**。大坂一の瓦師寺島惣左衛門が、徳川家康から四万六千坪の広大な土地を拝領、支配下の瓦師たちを居住させた地である。高津宮(くろやきや。惚れ薬、薬事法30年代)植木屋があった。生玉参道は梅屋敷。うかむせ、清水寺、安井天神